



NIPPON BEARING

1月25日付 日本経済新聞広告 『かくれ雑学』詳細

【過去の五輪には 芸術競技があった】

様々なスポーツ競技を競い合う近代オリンピック。

過去には「芸術競技」が存在し、建築・彫刻・絵画・文学・音楽の5部門が実施されていました。

芸術競技が行われていたのは、1912年から1949年まで。

1936年のベルリン大会では、絵画の藤田隆治と水彩の鈴木朱雀が、それぞれ銅メダルを獲得しています。

近代オリンピックの父〈クーベルタン〉は、古代オリンピックで実施されていた芸術競技の復活に熱心でした。1949年に芸術競技は廃止されますが、その後、クーベルタンの意志は継承され、オリンピック開催期間中の芸術展示・文化活動を行う文化プログラムへと発展していきます。

彼のスピーチに、『オリンピックは参加することに意義がある』という言葉があります。

のちに、オリンピックを表現する言葉として有名になりましたが、このスピーチ誕生の背景には、「オリンピックの理想は、人間を作ること・国際交流、世界平和の実現」という考え方があったと思われま

日本ベアリングは、1939年に山崎鉄工所として創立以来、直動ベアリングのパイオニアとして、製品の開発と製造に勤しんで参りました。

1966年、新潟県新製品技術開発賞・第四銀行賞の受賞を皮切りに、

日本発明振興協会 考案功労賞や科学技術庁長官賞など、これまで計7度もの主だった賞を受賞しております。昨年は、2度目となるグッドデザイン賞も受賞しました。

日本ベアリングでは、『お客様に喜ばれるものづくり』を念頭に、開発・製造・販売をしています。

「お客様のため」「より良い製品作りのため」、ひたむきに技術を磨いてきた結果が「受賞」という実を結びました。

クーベルタンが実行した「スポーツの祭典に芸術を取り入れたこと」「勝敗より参加することを重要視したこと」は、結果として、多くのメダリストを輩出することになりました。

本質を見失わず頑張るものにだけ、受賞という栄光が待っているのかも知れません。

【企画・協力：㈱学研エデュケーショナル】